

板野中学校 同和教育だより

## MY SKY 第12号

マイ・スカイ

2001年11月13日(隔週火曜日きまぐれ)発行

p(&gt;\_&lt;)q

発行者

編集・文責  
齋吉成正士

ひごと 日毎寒くなってきてますね。体 調崩たいちょうくずしてはいませんか? 寒いからといって小さくなっているんじゃなくって、しっかり運動をし、バランスのとれた食事をたっぷりとて、あつたか~いお風呂に十分つかり、適度な睡眠をとって健康管理に努めてみてくださいね!

さて、今週末に板野養護学校で、「今日よりもすばらしい明日」というテーマで文化祭が行われます。地元板野町にありながら、「近くで遠い板野養護学校」。以前私はそんな思いを持っていました。今でもその思いは残っています。でも、板養と町内の小・中学校や「障害」児学級のみなさん、また教員同士が交流していく中で、学校としては徐々に身近に感じられるようになってきたように思います。でも、「町内にあるんだから、日頃から身近にもっと交流できるといいのになあ」と思うのです。その一つの場として、文化祭に行ってみるっていうのはどうですか? 「町内にあって身近な板野養護学校」となったとき、板野の町に本当のバリアフリーがおとずれると思うのですが……。

板野養護学校文化祭～今日よりもすばらしい明日～

11月18日(日) 9時20分～15時00分



## ◆ 「自分をまず好きになること」(1年C組・1年生全体学習:11月1日)

前号に引き続き、全体学習の報告をしておきます。10月16日の1Dに続いて、11月1日に1Cが「心やさしい子どもたちへ」という資料で全体学習を行いました。その時の感想が届きました。一部で申し訳ないのですが、どうぞ読んでみてください。

手を挙げることができなかったのが残念です。でもまた家でも家族と話したりしたいです。

\* \* \* \* \*

もっと緊張きんちょうするかと思ったけど、そんな緊張せず、アッという間に過ぎてしまいました。

\* \* \* \* \*

自分から手を挙げられなかったけれど、2回も言えたのでとても良かったです。今度

から少しづつ手を挙げたいです。

みんなさまざまな思いがあつたようですね。がんばれた人も、がんばりきれなかつた人も、それぞれの思いを抱き、それぞれの課題を自分の中に見つけたようです。中学生活もまだまだこれから！次までにまた少し成長し、その姿を1年生の間で確認し合いましょう。

また1Cのがんばりに対して、他のクラスから次のようなエールが届きましたよ！

今日全体学習でした！C組の人の意見を聞いてみると、私と同じ意見の人いました。私はいじめをなくすには、自分をまず好きになることが必要だと思います。好きになれたらいじめは少しでも減ると思います。

\* \* \* \* \*

今日全体学習がありました。C組がしました。みんな自分の意見がはっきり言えていました。私もマイクがまわってきたら言えました。自分のときもがんばります。

この他にも「私は自分から手は挙げられなかつたけど、前より考え方があつたつていろいろ考えることができました。」「うちのクラスには出てない意見もあつた。やはり一人一人みんな考え方があつたんだ……。」「先生！B組の時もがんばるからね！」といった感想が届けられました。みんなつながつてゐるね！

いろんな仲間のいろんな意見・考えを聞くことで、その仲間を認められたり、その仲間に  
きょうかん  
共感できたり……。「自分一人だけじゃないんだ！」って思えたんじゃないかな。また他の  
クラスのがんばりをうらやましがるのではなく、ねたむのでもなく、そのクラスのがんばり  
を認めながら、さらに自分のクラスも伸びていこうとする姿。本当に尊い姿のように思えま  
す。

人にはどうしても、他人と比べてしまう気持ちがあるように思えます。人と共に暮らしている社会では当たり前のことかもしれません。しかし、その「比べる気持ち」が自分を奮立たせる気持ちに変わるとともに、周りの人々と共に伸びていこうとする気持ちに変わればいいのですが、逆に「自分はダメだ」とか、「自分さえ良ければ」といったような、周りの人々との関係を切ってしまうような気持ちになるのは、すごくもったいないことのように思えるのです。

今回の全体学習で扱った資料「心やさしい子どもたちへ」は、いじめによって命を落とさざるを得なかつた中学生のお父さん、お母さんの手紙です。この手紙の訴えていることもまた、みなさんが学び、感じたことと同じではないでしょうか。「学び」は、尽きることがありません。さらなる成長をめざして、1年生のみなさん！共にがんばり続けましょうね！



◆ 「偏見から抜け出そう～ハンセン病県出身元患者、過去語る～」

以前、このマイスカイでハンセン病について特集したことがありました。あの頃から、ハンセン病についての理解と啓発に関する取り組みを、よく見聞きするようになった気がします。10月20日に徳島市内(県郷土文化会館)で行われた人権啓発フェスティバルでも、ハンセン病に関する啓発行事が行われました。その記事を見つけましたので、読んでみてください。元患者の心の叫びが、記事に載っている短い言葉の中に凝縮されているように感じます。いろんな思いを膨らませながら、じっくりかみしめたいものです。

2001年(平成13年)10月21日 日曜日

# 偏見から抜け出そう

## 県郷文で人権啓発フェス

「死を選ぶしかないと思った」「子供の姿を見ることがなく、やみに葬られた」とが一番つらい。二十日、徳島市内の県郷土文化会館で人権啓発フェスティバル（徳島県主催）があり、国立ハンセン病療養所の大島青松園（香川県庵治町）と長島愛生園（岡山県久町）で暮らす徳島県出身の元患者の六人が市民との車座交流で「過去」を語った。「私たちにも自身への偏見がある。ともに偏見から抜け出そう」とも呼び掛けた元患者者。ひざを交え、聞いていた多くの人が涙を流した。

## 交流参加者の涙誘う



## 県出身の元ハンセン病患者が体験談を語った交流会 三県郷土文化会館

那河内村出身川は「偏見は無知から生じる。そして、知ることで行動することの間にはまさに大きな差がある。私も自身への偏見から抜け出たため、人と交流することを心掛けたい」と語った。

会場からは、更に青松園を訪ねた城北高二年の中島邦生さん(左)が、涙ながらに「こうした交流の場をもう増やしてほしい。大島にもまた行きたいし、いつでも帰ってきてください」。青松園の入所者と交流して二十多年になる藍住町奥野の会社役員高塚寅央さん(右)は「この場に年配の参加者がいないのが残念。元患者と同じ目線に立ち、どんな人生を送ったか耳を傾けてほしかった」と話した。

最後に、司会を務めた十川勝幸(ハナセン病援護協会理事)が、「私たちに何ができるか、そして何をすべきか、それそれに考えてみてほしい」と締めくくり、東條康江さんと夫の武智高さん(右)、高知県出身が歌った唱歌「あるさ」も参加者

むすこ  
「息子よ 息子」さて、あなたは……？

先日、ある同和教育の研修会に参加していた先生と、その時の内容について話していました。その中で、下のような資料(文章)が研修会で使われたということを聞きました。見せてもらひながら、「この文を読んで、どこかおかしいと思いますか?」と尋ねられました。「う~ん……」と唸うなつてしまいました。みなさんはこの文章を読んで、どこかおかしいと思いますか?どうぞ考えてみてください。コメントは次号したいと思いますので……。お家の方も、どうぞご一緒に考えてみてください。

## 息子よ 息子

路上で、交通事故がありました。

タンクローリーが、<sup>ちや</sup>父<sup>むすこ</sup>とその息子をひいたのです。

息子はすぐ、救急車で近くの病院に運ばれました。

父親は、となりの町の病院に運ばれました。

息子が病院に運ばれると、すぐに外科医が、彼を治療しようとした。

そこで外科医は彼を見るなり、

「息子!! これは私の息子!!」となげき、斐しみました。



■ 3年生のみなさんは、来週第2回基礎学力テストがあります。次から次へとテストがあつて大変かもしれません、町同研やその後の全体学習で「一本の大根として」を通して学び合った進路に向ける思いを、みんなのものとして共に乗り越えていこうではありませんか！なお町同研や3Bによる全体学習については、次号報告したいと思います。 ■ 来週末、第53回全国同和教育研究大会が、鳥取県内で行われます。全国各地から何万人という人々が集い、各地の同和教育の取り組みや、部落差別はじめとしたあらゆる差別の現実について話し合います。私たち同教団と高畠先生で参加し、さらなる学びをするとともに、多くの仲間をつくり、つながってきます。その報告も次号行いますので、楽しみにしておいてくださいね！



11月13日(火) 3年生・3年B組全体学習(午後;体育館)

18日(日) 板野養護学校文化祭

19日(月)～21日(水) 3年生基礎学力テスト

24日(土)～26日(月) 第53回全国同和教育研究大会(鳥取県)

12月1日(土) 板野町解放文化展 意見発表講演会(13:00~;文化の館さくらホール)

《MY SKY 第12号》

3日(月)～5日(水) 2学期末テスト

9日(日) 南公会堂祭り(9:00～13:00;南公会堂)

10日(月)～13日(木) 保護者面談